

きらめき通信 v.01.12

みなさん、こんにちは。『きらめき通信 v.01.12』では、平成24年4月1日付けで九州大学 男女共同参画推進担当理事に就任されました菊川律子先生に自己紹介させていただきます。

はじめまして。この4月から九州大学に勤務しておりますが、私は本学教育学部を卒業後、福岡県や国の機関で教育行政や男女共同参画行政を担当して参りました。福岡県が男女共同参画条例を制定するときに担当課長でしたが、当条例の理念は「人権の尊重」「エンパワーメント」「パートナーシップ」の3点です。昭和49年に就職したとき福岡県庁に行政職の女性の係長は皆無でした。現在は女性の係長は普通になりましたが、課長職以上となると5%前後と意志決定の場への参画は40年近く過ぎてても、なお道遠しの感があり、そのことは県民にとって不利益と、言えるのではないのでしょうか。

きらめき通信は、手作りで、プロジェクトに参加している方々のいろんな事例が載っていて励まされますね。私も二人の娘を育てましたが、近くに親たちがいるわけでもなく、夫と二人手分けをして、また上の娘やシルバー人材センターも頼りとしながら何とか続けてきました。公務員には育休もない頃で、産後3ヶ月からの職場復帰でした。育児休暇の延長や病後児保育の開始など、両立環境は随分と進んだようにも思いますが、一方働いている娘たちの孫育てを手伝ったりしていると、子どもの病気や勤務時間の余裕のなさ等、仕事と子育ての両立にはなおシステムの整備や世の中の常識の変化がいるのだと思わざるを得ません。

人生が長くなり、70歳現役社会づくりもこの男女共同参画社会づくりも、労働と生活のバランスを時間軸と男女という空間軸でどのように合理的に分担するかということだと思います。今までの社会の常識と今必要とされるシステムのズレが女性の肩に食い込んでいるという感じがします。

とはいえ、優れた取り組みも少しづつ進んでおり、このきらめきは該当の医師や看護師はもちろん、恩恵を受ける女性の患者さん等にとってもなくてはならないものですね。関係の皆様が一歩一歩前進し、成果が世の中に還元されることを心から期待いたします。

九州大学病院 きらめきプロジェクト キャリア支援センター
きらめきプロジェクト

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

2012年11月(隔月発行予定)

TEL/FAX: 092-642-5203

MAIL: kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

URL: <https://www.kyudai-kirameki.com>

☆仕事と育児を両立させながら日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクター（医師1名・歯科医師1名）を紹介します。



☆自己紹介

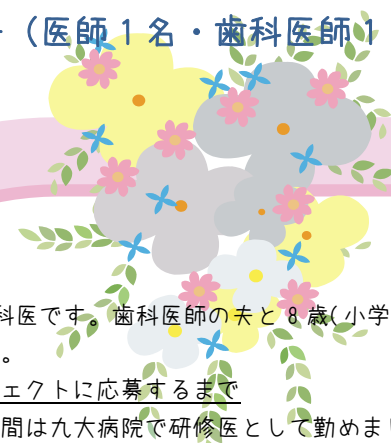
卒後8年目の内科系医師です。夫（医師）と2人家族です。きらめきプロジェクトに応募するまで研修医終了後は大学院生となり基礎研究をしていました。大学院在籍中にホルモン異常の病気がみつき治療が開始となりました。24時間の勤務医体制が難しかったため医局の計らいで体力的負担の少ない施設で働いていました。今回、きらめきプロジェクトがあることを知り応募させて頂きました。

☆現在の仕事

きらめきプロジェクトで採用して頂き、月曜と水曜の週1.5日勤務させて頂いています。当初、週2-3回お願いする予定でしたが夫が大病を患い、現在の日数となりました。採用して頂いた当初は、夫が福岡市の病院から北九州市の病院へ転院となり目まぐるしい毎日を送っていました。7月に退院し、振り返ると約8か月の闘病生活でした。現在も通院生活が続いていますが皆様の力を借りつつ、最近ようやく、短時間ながらも仕事にも復帰できるようになりました。

☆最後に

自分の病気、家族の病気など介護を必要とするケースでも今回、このような形できらめきプロジェクトに参加させて頂き私の希望を受け入れてくださった教授をはじめ、医局の先生方には大変感謝しております。このような環境が浸透していくことで育児、介護で仕事を休んでおられる女性医師が復職するきっかけになっていくことと思います。



☆自己紹介

卒後15年目の歯科医です。歯科医師の夫と8歳(小学3年生)、5歳(保育園年長)の子どもがいます。

☆きらめきプロジェクトに応募するまで

歯学部卒業後2年間は九大病院で研修医として勤めました。その後複数の歯科医院に勤務をしながら第1子と第2子を出産しました。第2子が1歳の時に夫の勤めもあり矯正歯科という新たな分野の勉強をしたいと思い、大学院生として入学し、昨年博士課程を修了しました。さらに認定医を目指して診療や研究、論文に日々奮闘中です。

☆きらめきプロジェクトに所属して

勤務日は週2日ですが、それ以外も大学での診療にあたっています。小学3年生の下校時刻は3時20分または4時10分ですが、小学校の敷地内にある留守家庭子ども会を利用し5時に下校し留守番したり習い事に行ったりしています。一人で鍵を開けるのは3年たってもいやなようです。保育園は給食、おやつ、お昼寝、希望すれば夕食も食べさせてもらえますし、保護者が送迎するので安心です。小学校は登下校も子どもだけですし、習い事や遊びと行動範囲も広がり宿題や勉強もさせたりと家庭でも時間をかけなければいけません。学校参観日やPTAの役員などの学校行事もあります。特に秋は運動会、バザー、遠足と保育園と小学校の行事も2倍で大忙しです。そのような行事にも柔軟に対応できるのは、きらめきプロジェクトのお陰です。

☆仕事と子育て

仕事をする上では多くの葛藤や模索を続けてきましたし、現在もまだ模索中です。仕事と子育ての両立は一人だけ頑張ってもできるものではなく、子ども、夫、周囲の理解と協力が不可欠です。両親も遠方のため病気の時には病時保育、帰宅が遅くなる時にはファミリーサポートのお世話になっています。周囲の協力を恵まれ支えられてやってこれていることに大変感謝しています。

☆最後に

歯科界では世界的に女性の歯科医師が増加傾向にあります。厚生労働省の調査によると全国の歯科医師数のうち女性の比率は20.2%、さらに年齢別にみると29歳以下ではなんと40.8%が女性の歯科医師です。国家資格を有した女性医師、歯科医師のキャリアが結婚、出産を経ても継続できるように本プロジェクトのますますの発展を願います。



九州大学病院きらめきプロジェクト

第3回学生交流会

テーマ 『今、きらめいてますか?』

日時：平成24年11月28日（水） 17：30～20：00

会場：九州大学病院総合研究棟 セミナー室105号室・サイエンスカフェ

プログラム

- 17：30 開会の辞
- 17：40 講演
『きっかけは「余命6ヶ月から読む本」』
岩崎瑞枝先生（ファイナルステージを考える会代表世話人）
- 18：15 パネルディスカッション
『医療人の、人生は弁当箱!』
- 18：55 閉会の辞
- 19：00 サイエンスカフェにて交流懇談会（1時間ほど）
※九大アカベラサークルによるライブ予定
- 20：00 終了



「人間には必ず死が訪れるのです。死を迎える前に死をちゃんと見ておいて、どういう死に向かう前におれをしておこうかと思うことで、今生きてることがもっと深い意味を持つてくるのです。」
（命のことだまより）

講演会演者 岩崎瑞枝氏 プロフィール

【略歴】

昭和54年	3月	早稲田大学教育学部教育学科卒業
平成 2年	3月	福岡教育大学大学院教育学研究科修士課程修了
平成 6年	4月	テレビ西日本報道番組キャスター
平成11年	4月	大分大学医学部非常勤講師（現在に至る）
平成16年	4月	久留米大学医学部非常勤講師（現在に至る）
平成17年	3月	久留米大学大学院医学研究科博士課程修了
平成18年	11月	独）科学技術振興機構社会技術会開発センター研究員
平成23年	4月	九州アカデミー看護専門学校非常勤講師（現在に至る）



【資格】

医学博士、専門健康心理士

【社会的活動】

平成 9年～ファイナルステージを考える会（平成19年度より代表世話人）

【著書】

「命のことだま」（単著・海鳥社）、「余命6ヶ月から読む本」（共著・海鳥社）、「うれしかった言葉、悲しかったことば」（編者・海鳥社）、「天使のあしあと」（編者・海鳥社）、「看護心理学」（編者・ナカニシヤ出版2012発刊予定）

【お問い合わせ・詫児のお申込みはこちら】
九州大学病院 きらめきプロジェクトキャリア支援センター
TEL/FAX：092-642-5203
メール：kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp
URL：https://www.kyudai-kirameki.com

主催：九州大学病院
共催：NPO法人九州医療システム研究機構 総合メディカル株式会社
周産期ゆりかごネットプロジェクト

無料託児あります。
お申し込みは1週間前までに！

